

彩の歳事記

平成二十八年 七月

天の川 榊かじの音聞こゆ 彦星と織女たなばたつめと今夜逢こよひあふらしも 柿本人麻呂【622～710】

「天の川にかじの音が聞こえます。彦星と織女は、今夜逢うようです。」

七夕のある「七月」は「星の月」枕草子に「星はすばる、彦星、夕筒 よばい星少しをかし 尾だになからましかばまいて・」「星はすばる、彦星、宵の明星が良い。流れ星も少し趣がある、尾を引かなければもつと良いのに」とあるように、夜の長いこの時期、星を愛でる機会も多かったようです。かつて、七夕は五節句の一つで宮廷行事、万葉集に百三十首余り所収。昨今、星を見上げる事も少なくなりましたが、夜空を見上げ、短冊に書いた願いを唱えてみたいもの。外来の催事だけでなく、日本古来の行事も大切にしたいものです。



七月の暦 文月(ふみづき・ふづき) 七夕に詩歌を献じたり、書物を夜風に曝す風習があることから。

一日 山開き 昔、山は聖地とされていたので、登山は信仰行事。一定の期間は入山できず、その禁を解くことを山開きといった。富士山など神社が関わっている山で行われる。

俳句の季語に(春：山笑う 夏：山滴る 秋：山粧う 冬：山眠る)

一日 半夏生【雑節】梅雨末期。大地に毒が満ち 半夏はんげという毒草が生える時期。

「ハンゲ」はサトイモ科カラスビシャク。地方の蛸を食べる習慣が、全国的に。

六～八日 朝顔市 入谷鬼子母神 朝顔は奈良時代、遣唐使によつて伝来。当時、種子は下剤として用いられ、鑑賞用となったのは江戸時代と言われる

朝顔に釣瓶とられてもらい水 加賀千代女【1701～1775】

七日 小暑【二十四節気】梅雨が明け、暑さも本格的に。暑中見舞いを書き始める。

七夕 盆に戻る祖先の為、川に設けた機織棚で布を織る女性「棚機女」に由来。日本三大七夕祭は

六～八日◆仙台七夕(宮城県) 八～十日◆平塚七夕(神奈川県) 五～七日◆安城七夕(愛知県)。
浴衣の日 日本ゆかた連合会が1986年制定。七夕の日、七本の針を並べ祈った中国の故事に因む。

九～十日 鬼灯市(浅草寺) この日、観音詣をすると四万六千日分の功德があるとか。

十三～十六日 お盆・盂蘭盆会(うらぼんえ)東京 祖先の霊を供養する行事。

十七日 京都祇園祭(日本三大祭) ハイライトの山鉦巡行。一ヶ月にわたる大規模な祭事で有名。

十八日 海の日(第三月曜日) 国民の祝日 世界で『海の日』を祝日としているのは日本だけ。

二十二日 大暑【二十四節気】この日から立秋までが名実ともに暑さの盛り。

二十四日 河童忌 小説家・芥川龍之介【1892～1927】の忌日。代表作『河童』に因む。



夏目漱石の門下で『鼻』『芋粥』を漱石に絶賛された。『羅生門』『地獄変』『歯車』など。東京京橋(現・中央区明石町)生まれ。東京帝大卒。田端文士村記念館に資料や家の模型など。

三十日 土用丑の日 鰻を食する習慣は平賀源内【1728～1780】の発案のコピー。

七月の歌 星に願いを… 1940年

ディズニー映画『ピノキオ』の主題歌。

アメリカ映画主題歌ベスト100の第1位。
(ディズニー関連作品では最高位) スウェーデンとノル



ウェーではクリスマスソングになっており、ベツレヘムの星について歌っている。ルイアームストロング等多くのカバーバージョンが存在する

輝く星に心の夢を
祈ればいつか叶うでしょう
きらきら星は不思議な力
あなたの夢を満たすでしょう
人は誰もひとり
哀しい夜を過ごしてる
星に祈れば淋しい日々を
光照らしてくれるでしょう
When you wish upon a star
Make no difference who you are
Anything your heart desires
Will come to you
If your heart is in your dream
No request is too extreme
When you wish upon a star
As dreamers do

